

# EAST CLOUD

東中・校内研修

令和4年度 富岡市立東中学校  
令和4年11月15日(火)  
発行者:萩野裕介  
校内研修だより No.



## 【研修テーマ】

『思考力・判断力・表現力を  
身に付けた生徒の育成』

～1人1台端末の効果的な活用を通して～



## ～一人一授業④を終えて…!!～

村田先生、大嶋先生、青山先生、ありがとうございました！**授業者の学び**はもちろんですが、**参観者の学び**も多かったのではないのでしょうか？「他教科だから関係ない」ではなく、「**自らの力に変えよう**」と熱心な意見交流が検討会でも行われていました。一人一授業を「**作業**」とするのではなく、職員全体の「**トレーニング**」の場として、これからも活用していきましょう！！

先生方に提出していただいた「まとめ」から、特に大切だと思ったことを「**#研修のバトン**」としてまとめました。

### 【#研修のバトン】

・**ジャムボードに何を書かせるかが大切**

→「キーワード」を書かせるだけにして、意見交流に繋げる

・**他教科との関連性**

→教科横断を意識することで時間短縮・生徒の成長に繋げる

・**単元全体のデザイン**

→この1時間にやるべき事は？なぜそれをするのか？明確に！

・**「協働的な学習の時間」と「個別最適な学びの時間の区別」**

→なぜ、その活動をしているのか？明確に！



## 【英語・1年】村田 真子 1年2組教室

「ホゼ先生のお母さんからのメッセージに答えよう！」

村田【英語】

- 4技能◎習得技能順◎ 子どもたちについていけない授業で良かったです。
- 生徒への英語での指示に対する支援が充実
- メモ英語◎
- ゴールの設定→振り返りの繋がり
- 技能面・内容面
- シャムボードの時間をもう少し長く取れると良かった。
- 疑問詞は既習内容になるので、本時はさらっと全体で確認→考える時間を増やしたかった
- ていねいな指導であった反面、まとめ振り返りの時間がなくなりました。
- 一つ一つ丁寧に説明ができていて、生徒が納得している様子が見られた。
- 英語の4技能が入った授業
- 個別→グループ
- All English
- 班で活動する時の指示の出し方を工夫することで、時間が多少短縮できたか？
- ホゼママが何を求めているのかを確認する時間を取りすぎた。何を聞き取って欲しかったかを焦点化するといいい。
- 「回答メモを書くことのできる」・・・ねらいは、どうだったでしょうか？
- 個人で聞く活動：指示があいまいなので、視点を与えたりメモを取りながら聞かせるとういと思った
- 変化の見られるjamboardにしたかった。
- 単語から内容へ入る段階的な指導
- 子どもたちがよく反応していた良かった。
- 長文の書き方・段落→メールでのやりとり・繰り返し使えるWS
- 1のWarm upは、ペアにして発話量を増やすと短時間で更に色々な単語が飛び交って復習に繋がられるかもしれません。
- 子どもたちがタブレットを使いこなしている。また、1年なのに
- 教師の説明と生徒の機器利用がスムーズよかった
- 英語の説明の後、Please start→生徒が理解していない単語、少しやり取りをして進めると良い？
- あらかじめ、線を引いてあるドキュメントの用意があるとより良かった。
- 単語のハイライトや内容の確認に時間がかかってしまった。

## ～11/14の指導案～

以下の方法で閲覧・ダウンロードができます（パソコン、タブレット、スマホ等）

①QRコードを読み込む

②リンク(URL)をクリック

※資料を保存している Google ドライブに接続されます。

[https://drive.google.com/drive/folders/1HoyX3gE6B\\_wvRVJz2fTF2VfYgK8Q-kom?usp=sharing](https://drive.google.com/drive/folders/1HoyX3gE6B_wvRVJz2fTF2VfYgK8Q-kom?usp=sharing)



【理科・1年】 大嶋 翔太 第2理科室 「『光と音』身近な物理現象」

大嶋【理科】

仮説

予想の共有をオクリンクで実施→実態把握、本時の導入活用効果的

仮定の比較がわかりやすい

指導主事より...先生の授業を作ろうとする姿勢があった。生徒も意欲的に取り組んでいた。科学的な探求【量的・関係的な見方】につながるめあての設定、生徒の記録があった。

【条件制御と再現性、実証性】丁寧だった。②ICT活用...結果の共有、オシロスコープの活用が少なかった(必要感) ③教師のファシリテーター...思考の広がり・深まり→協議の場にする

班での実験項目を絞る←競技する必要性をつくる(時間短縮にも繋がる) 共同の学びに。

オシロスコープ

オシロスコープを利用した班の結果にふれてもよかった

実験から得た結果を各自だけではなく、全体で共有

アプリなどを活用している生徒を取り上げて発表してもらおう

オシロスコープの活用があまりなかった

7班の結果を紹介する、次の授業につなげる

計画

シートがシンプルで確認・共有しやすい

実験計画のオクリンク表...生徒が入力しやすいものであった

実験計画のオクリンク表...先生の具体例があったのが良かった

結果の発表をしながら、オクリンクで確認できる←時短

オクリンクで他の人の意見を確認することで、考察を書けない生徒がいなかった。

共同編集をすることで、班で共通して条件制御が確認しながら実験できた。

ICT活用

オシロスコープ

ICTの活用と同時に、追実験をしたり、前で全体の確認をしたりすることで、より効果的に使えている

ICT活用

個別最適な学びか共同かを目的に応じて使い分け

結果と考察の関係

オクリンクの結果と考察をつなげる(張りの張りを「張る回数」と書いている生徒がいた)

TVの活用・机間支援での問い返しをすることでより効果的に活用できる

少数意見も取り上げて検証できていた

実験に入る際、役割分担が理解できていない生徒もいた。机間指導や確認が必要。

モノコードをさわらせる前に注意点を伝えたいほうが良かったのでは

生徒の言葉から前時の振り返りや、まとめを行うことができていた。

最後に実際にモノコードを弾いて確認したことは生徒同士で安心できていたようだった

実験の説明や考察結果をまとめる際に、丁寧に指導していた。(生徒の発表だけで終わらない)

まとめを考える際に、個々に発表させた後、掘り下げてみる。

～授業のまとめ～

ワーククラウドの活用 Jamボードを使うときの役割分担

生徒が、ジャムボードを「活用する」ことができていた点。(キーワードだけ記入し、気になったことを話し合いの中で質問する。等) 日頃の授業で生徒にうまく指導しているのが伝わってきた。

生徒の意見を個人だけではなく、全体で共有する。(電子黒板など)

- ・授業を通して教科の中身だけでなく、生徒にとっての将来の展望・希望まで見せられるような授業を作ること
- ・他教科との関連性(今回でいえば国語と特活:合意形成)を意識して授業を作ること

オクリンクでの共有、共同編集、教師のファシリテーター

話し合いの活性化について(事前に生徒へ課題を考えてもらう・司会や書記を決めておくなど)。

ジャムボードでの意見交流の仕方。

より説得力のある根拠を導くための手立て。(同じような実例をもってくる)

ねらい、めあて、まとめ、ふりかえりの整合性、つながりの大切さと難しさを改めて勉強させていただきまし。日頃から意識していきたいと思ひます。また、説得力を高めるためにどんなことを突き詰める必要があるのか、また逆に突き詰める必要のないものは何なのか、自分の中で整理していきたいと思ひます。ICTについても、全体での色分けやカテゴリーごとの深堀りなど色々な面から挑戦していきたいです。

ジャムボードを使ったブレインストーミング

単元全体を考えた授業構成と、その1時間にやるべき内容の整合を取る。

ジャムボードの活用

生徒一人一人の考えたり、発言する時間をつくってあげられるように授業づくりを行いたいと思ひました。

ICTの効率的な使い方をよく考えて、時間節約、評価に活かすことをしていきたい。

4技能をしっかり入れた素晴らしい授業で本当に勉強になりました。1年生でここまで活動できるのは、これまでの村田先生の熱心な授業作りの賜物であり、子どもたちの背中から「先生！僕たちももっと頑張りたいよ！」って声がかえってきました。村田先生の生徒たちは幸せですね。私の頑張ります。今日は本当にありがとうございました。

身近にあるものを課題にできるような工夫をしていきたい。

共有してグループで協議できるように発問をしていくことが大切だと思ひた

めあてとめあてを達成するための今日の活動のために、小中の連携や既習事項を意識して授業を行っていきたくひです。主活動の時間をとるためにICTの共同編集の機能を活用するなど、効率的に授業を行い、英語の4技能を活用した授業を作りたいです。

協同的な学習をする場面と個別最適な学びをする場面の区別をしていくこと。

理科の見方・考え方を意識して普段から授業づくりを行っていくこと。

結果をまとめる際、より多くの意見に触れて、生徒が検討する場面を増やしていくこと。

ファシリテーターの技術

【国語・3年】 青山慎太郎 3年2組教室 「合意形成に向けて話し合おう」

青山【国語】

生徒の実態を正確に把握していると感じた(話し合いの活発さ)

前時に、生徒から課題点を出しているため、どの生徒も自分ごととして捉えていた

前時に出た富岡市の課題をスライドでまとめたことにより、ブレインストーミングでたくさん意見が出せていた。

自由に意見を言い合える、学級の雰囲気が良い。

「話し合いを活発化させる手立て」としてのICT活用 テキストマイニング、Jamボード

生徒の声「いいね！」から、「あ～それいいねえ。」納得の声に変化

夢の広がる授業で、生徒たちの理想の思いが出てきていた

どれだけ現実的なものに近づけられるかが難しかった。

メリハリのある展開 ブレインストーミング→絞る

司会・書記を決めておくことで、話し合いの流れがスムーズになっていた。

ルールにのっとって、たくさんの意見が聞かれていた。

編集権限の制限→話し合いの活発化に有効であった

書記だけに編集機能。書記だけではなかったようだが、話し合いはすごく活発だった

授業のねらいの“説得力のある意見”を引き出すこと

4つの色に分けたカテゴリーごとに行うことで、より具体的に考えられるのでは？

付箋を、できるもの・できないものの色分けをしていた班もあった。全体で色分けをすれば、視覚的にも見やすい・わかりやすいかもしれない。

振り返りの視点

説得力を高めるポイントで意識付け

他の意見を生かす意識付け

